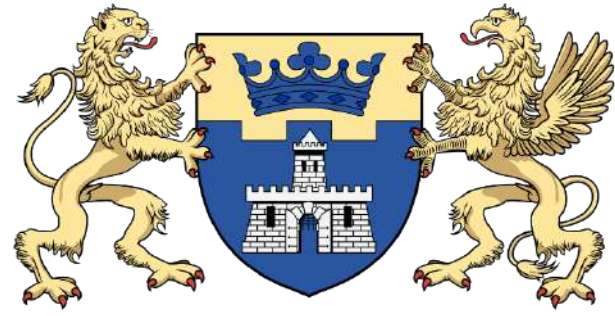


## ブダペスト7区 エリザベス街

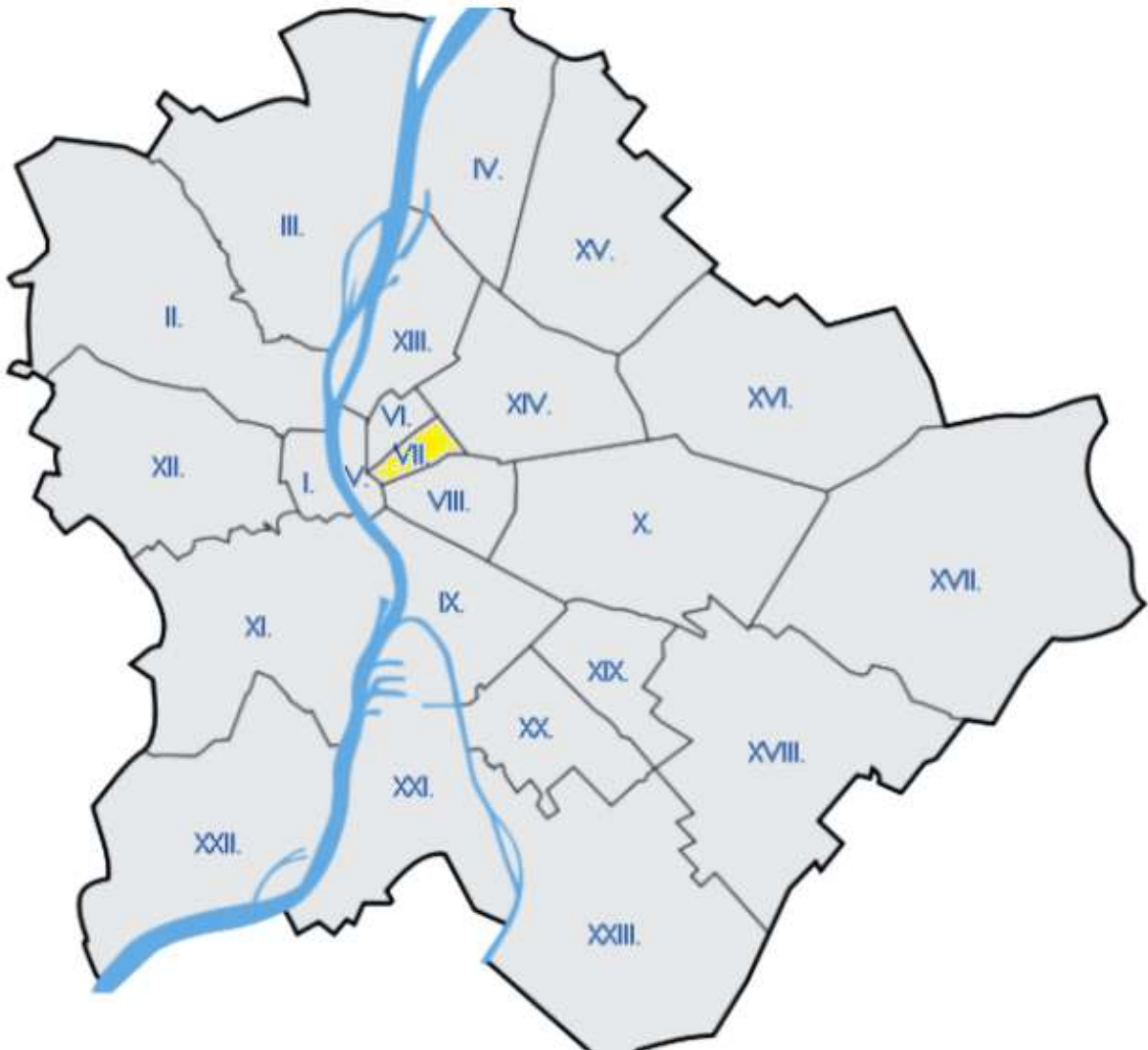


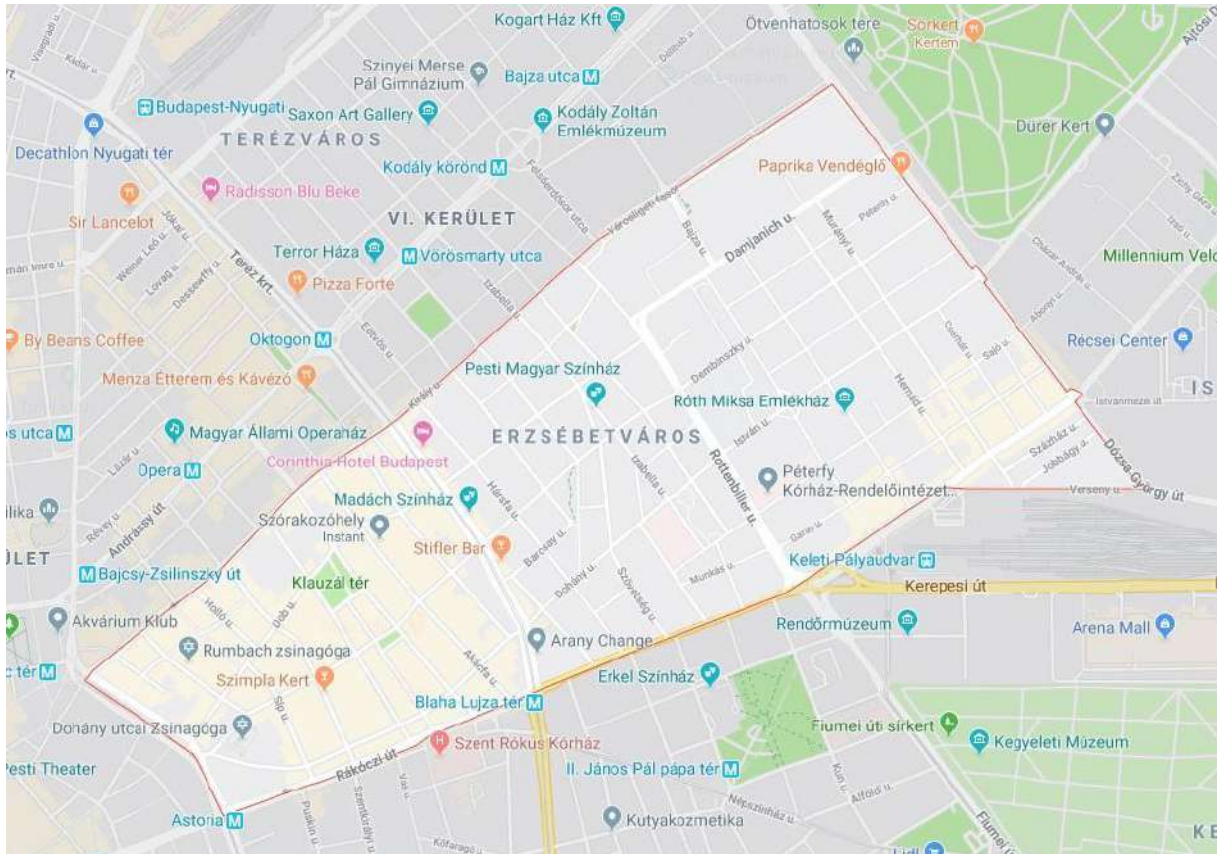
面積: 2,09 km<sup>2</sup>

人口: 49 652 fő (2022)

人口密度: 25 541 fő/km<sup>2</sup>

7区はTerézvárosとJózsefvárosのあいだにあります。ブダペストの多くの地区がそうであるように、この地区にも歴史があります。Jókai Mór(小説家)、Karinthy Frigyes(作家、詩人、評論家)など、何世紀にもわたって多くの著名人がここに住んでいたのです。そして、ヨーロッパ最大のシナゴグもあります。



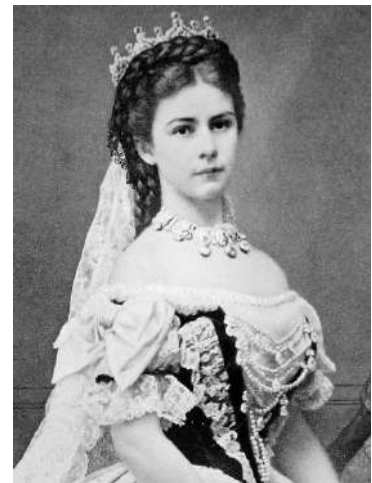


## 歴史

7区は、1873年にブダペストができた際に作られました。1881年、Ferenc József 1世の妻、Erzsébet女王にちなんで、町の新しい区域を命名するよう、そこに住む人々が請願しました。しかし、この地区は、何世紀にもわたって、パーティー地区、Ligetváros、ユダヤ人地区など、いくつかの非公式な名称も与えられています。

ユダヤ人街という名称は、ヨーロッパ最大のシナゴグがこの地区にあることに由来しています。そして、1944年に Király utca、Kertész utca、dohány utca、Károly körútの間がペストの大ゲットーとして指定され、数万人のユダヤ人がひしめき合いました。つまり、この時では確かにこの地区にはユダヤ人だけが住んでいました。

共産主義が崩壊するまで、この問題のある地域は放置され、常に朽ち果てようとしていました。裕福な家庭や住人は他の地区に引っ越してしまいました。2000年代初頭から、空き家となった長屋やその中庭には、「romkocsmá」と呼ばれる居酒屋がつけられました。2010年代に入り観光業が活発化する



と、ナイトクラブが増え、夜間の騒音や人通りの多さで、次第に地域住民に迷惑をかけるようになりました。

Ligetvárosは7区のVárosliget地区にあるエリアです。2000年代初頭から、この一帯をリゲトヴァーロシュという名称で呼ぶようになりました。Ligetvárosは、István通り - Dózsa György通り - Damjanich通り - Rottenbiller通りに囲まれて長方形の形をしています。その中で最も有名な通りは、Damjanich通りです。

## 有名人

ヨーカイ・モール(**Jókai Mór**:1825-1904)は、ハンガリーを代表する小説家の一人です。ハンガリーの偉大なストーリーテラーと呼ばれています。また、1848年の革命に参加した「三月の若者たち」の一人でもあります。彼はMóricz Jókayとして生まれましたが、文学人生の後半にMór Jókaiを名乗るようになりました。1899年に7区のErzsébet körút44番地に引っ越しました。



**Karinthy Frigyes:** (1887-1938)は作家、詩人、評論家です。ダムヤニッチ通り27番地の家に生まれました。ハンガリーの文学界で最も重要な人物の一人でした。雑誌『Nyugat』の編集長を務めました。



**Rejtő Jenő:** (1905-1943)は、劇作家、冒険小説家でした。Rejtő Jenő通り6番地の家に生まれました。彼の最大の成功は、P.ハワードというペンネームのponyvaparódiaでした。



## 名所

シナゴーク (Dohány utcai zsinagóga)

ドハーニ通りにある、ハンガリーのユダヤ人社会で最大のシナゴークで、ヨーロッパでも最大のもので、かつてのユダヤ人街にあり、現在も多くのユダヤ人が伝統を守りながら暮らしています。シナゴークはハンガリー・ユダヤの重要なシンボルであり、ブダペストの主要な観光スポットでもあります。また、クラシック音楽のコンサートや各種フェスティバルを開催するなど、首都の文化的な生活にも積極的な役割を担っています。



## ニューヨーク宮殿 (New York palota)

Erzsébet körút 9-11番地にある4階建ての宮殿は、1894年に建てられました。大通りの中で最も特徴的で堂々とした建物の一つです。元々は保険会社の本社として建てられたもので、長屋アパートなどもありました。1階には建物が建てられた時からあるニューヨーク・カフェがあります。文学や芸術のテーブル・ソサエティやカフェの編集室など、20世紀前半のハンガリー文化史にも登場しました。





## 2本のオーク

Klauzál通りとWesselényi通りの角に位置する。ポーランドとハンガリーの友好のシンボルです。この絵は、2014年5月、ブダペスト・ポーランド協会が創立75周年を記念して首都に寄贈したものです。絵のテーマは、ポーランドの作家・政治家であるStanisław Worcellの思想である。それは、ポーランドとハンガリーの国は、互いに近くに成長し、一緒に不可分に成長する2本のオークの木のようなものであるという思想です。Stanisław Worcellはしばしばこの思想を引用しています。



## レストランと居酒屋

7区のErzsébet körútを中心に、多くのショップが軒を連ねています。トラム4号線、トラム6号線のほぼ全線にこれらの店舗が並んでいます。

例えば:

4es 6os söröző



Nber bár

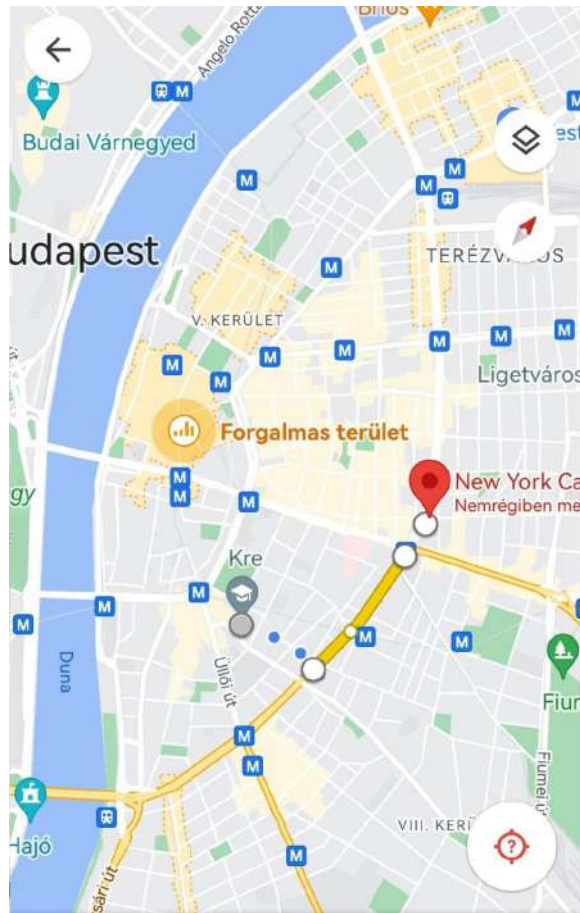


Bibimpab 韓国料理店

などがあります。この中でも特に有名なニューヨークカフェを紹介します。ここにはホテルもあります。

## ニューヨーク宮殿(New York palota)

1073 Bp, Erzsébet krt. 9. +361886111



Erzsébet körút9-11番地にある4階建ての宮殿は、1894年に建てられました。大通りの中で最も特徴的で堂々とした建物の一つです。ホテルがありますが、1階には建物が建てられた時からあるニューヨーク・カフェがあります。2019年には、年間60万人のゲストが訪れるハンガリーで最も人気のあるレストランとなりました。カフェでは終日ピアノライブを開催しています。さらに、毎正時には15分間のジプシーバンド演奏が行われます。その人気ぶりは、ピーク時には入り口に長蛇の列ができ、20~30分待ちということも珍しくありません。

ニューヨーク・パレスは、ハンガリーでは贅沢な場所で、ハンガリーのエリートしか手が出せません。そのため、ホテルの宿泊客の大半は外国人観光客です。ニューヨークカフェで一番

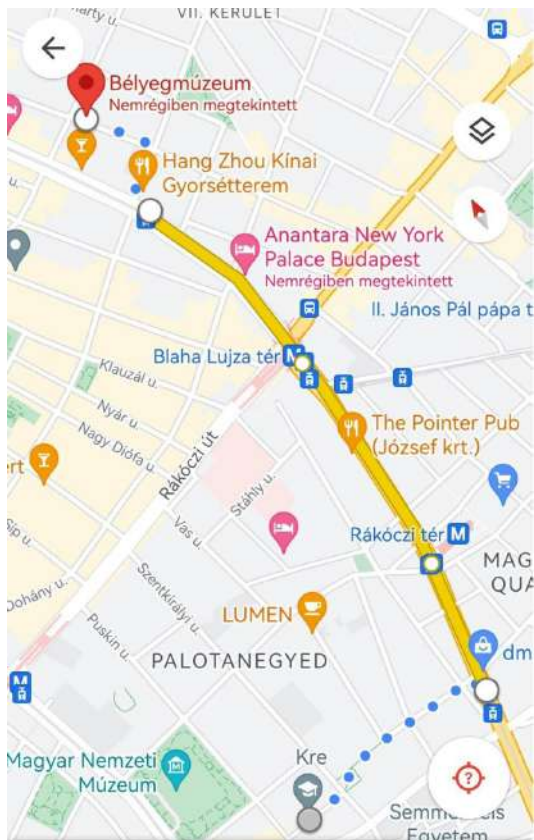
安いコーヒーはエスプレッソコーヒーで、2145HUFです。最も高価なコーヒーはハンガリーコーヒーとアイリッシュコーヒーで、3900HUFです。

ニューヨーク・カフェは大学から12分です。大学からHarminckettesek tereまでは徒歩6分です。そこでトラム4番か6番に乗り、ブラハ・ルイザ広場で下車します。トラムの停留所から、Erzsébet大通りを2分ほど歩くと、カフェがあります。そこでトラム4番か6番に乗り、Wesselényi utcaで下車する必要があります。



## 切手博物館

1074 Bp, Hársfa u. 47. +3613423757



ブダペスト7区のHársfa通り47番地にあります。1930年、クリシュティナ大通りにある郵便局長宮殿の8階に開館しました。そして、1939年にErzsébetvárosに完成したハンガリー初の近代的モニュメント建築であるRimanóczy Gyula設計の郵便局舎に移転しました。

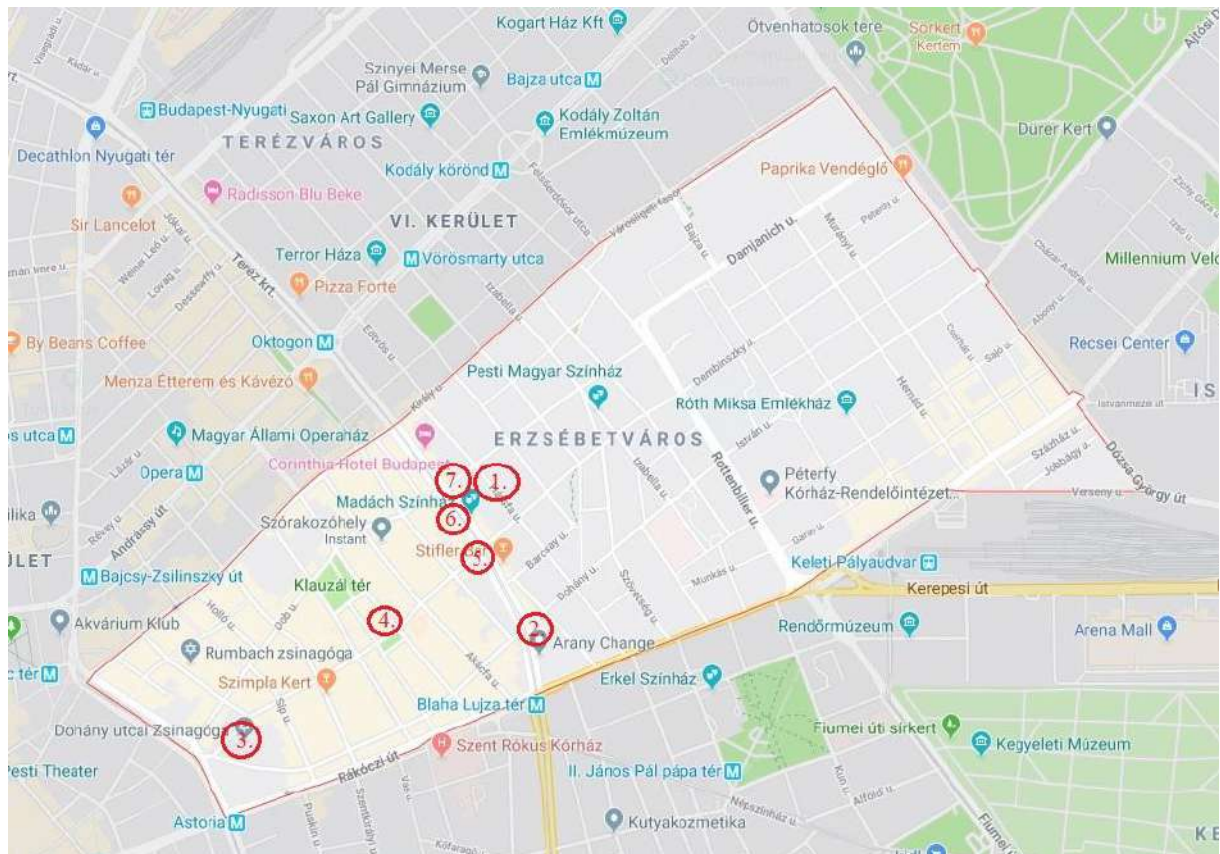
初期の切手は、郵便局長自らが作成することが多かったため、個性的なものが多いです。そのひとつが、1848年に作られた馬蹄形の「Sárkeresztúr」という地名と日付のスタンプで、展示室の入り口の向かいにその拡大画像が展示されています。

切手博物館は月曜日を除く毎日、午前10時から午後6時まで開館しています。月曜日は休館日です。入場料は、学生500HUF、大人1000HUFです。そして、年金生活者と郵便局員も入場料は500HUF

です。

切手収集博物館へは、大学から公共交通機関で14分です。ニューヨークカフェから2分ほど歩くと、Hársfa通りがあります。その後、Hársfa通りをまっすぐ2分ほど歩くと、博物館が見えてきます。

## 地図



1. 切手博物館
2. ニューヨーク宮殿 (New York palota)
3. シナゴーク (Dohány utcai zsinagóga)
4. 2本のおー
5. Nber bár
6. 4es 6os söröző
7. Bibimpab 韓国料理店